

(別紙)

平成 29 年度さとうきび生産改善共励会受賞団体及び受賞農家の概要

(公社)鹿児島県糖業振興協会

1 団体の部

(1) 受賞団体

成績	市町村名	団体名	受賞区分
最優秀賞	中種子町	本村さとうきび生産組合 (代表者 黒木 秀樹)	鹿児島県知事賞

(2) 団体の概要

平成 8 年に設立された生産組合で、作付面積は組合設立当初 10ha 程度であったが、平成 28 年度は 17.9ha、平成 29 年度はさらに伸びて 22.7ha と作付面積の拡大に努めてきた。

早くから株揃機を導入し、適期株出し管理を行うことにより株出し栽培の期間を延ばし（平均 2～3 年）、このことが作付面積の拡大の要因にもなっている。

ほ場の物理性改善のため、新植ほ場は全てボトムプラウによる深耕を行っている。

近年、島全体ではマルチ被覆率は低下しているが、本組合では春植で 90%、株出し栽培でも 60% と島平均に比べてかなり高い実施率である。

栽培品種は農林 8 号が作付面積の 82% と太宗を占めているが、近年は初期生育が旺盛な農林 18 号の導入・拡大に努めている（農林 8 号：82% 農林 18 号：17% その他：1%）ほか、長年、町の原苗ほ設置を受託しており、種苗更新の重要性を認識し優良種苗への更新率は 80% と高い。

台風等自然災害に対する備えの意識も高く、農業共済への加入率は 100% である。

構成員が作付けするほ場の作業は全て組合所有の機械による共同利用・共同作業で行っているほか、種子島農業公社からの作業再委託も受けており、作業面積が年々拡大している。オペレータの作業技術が熟達しており、本組合への委託希望が多く、同公社からの収穫作業の再委託面積は 11.5ha に上る。（生産組合の作付分を含めて 29.4ha を収穫。）

組合員同士の話し合いを活発に行い、農業機械の共同利用や共同作業について役割分担を明確にして作業を円滑に進めているほか、さとうきび情勢や栽培技術についても意見交換するなどして情報の共有を図り、技術の向上に繋げている。

地域農家からの作業受託を通して、品目別経営安定対策の受け皿となるほか、町が実施する原苗ほ設置を受託するなど、地域のさとうきび振興に貢献している。

さとうきび農家の高齢化に伴い栽培面積の減少や廃作が見込まれる中において、将来に向けては、高齢農家も栽培を継続して地域全体でさとうきび生産が維持できるよう、植付から収穫までの一貫した作業受託を目指して、順次必要な機械の整備を進めていく計画である。また、高齢化等で栽培農家の減少が見込まれることから、青年農業者等後継者の育成にも力を注いでいく計画である。

連作障害の軽減、地力の維持を図るため、でん粉原料用さつまいもとの輪作体系の有効性を再評価し、本組合は元より地域農家への導入を徹底するほか、経営の発展状況を考慮しながら、将来は、法人化も視野に入れて検討を進めていく計画である。

●団体の主要指標（平成 28 年度）

構成員数	耕地面積		作付面積			耕地利 用率 C/A	さとうき び作付面 積割合 B/C
	①	うち借地	さとうき び ②	その他	合計 ③		
4 人	19ha	—	17.9ha	1.1ha	19ha	100%	94%

●さとうきびの生産状況

年 度	新植夏植面積	収穫面積	合計	生産量	10a 当収量	平均甘蔗糖度	共済加入率
26 年度	1.41ha	13.94ha	15.35ha	778t	5,579kg	10.58 度	100%
27 年度	0.9ha	15.74ha	16.64ha	846t	5,377kg	12.18 度	100%
28 年度	0.54ha	17.91ha	18.45ha	1,373t	7,640kg	12.55 度	100%

●農作業（受託）の状況

団体所有農業機械名	作業面積	農作業の内容及び直営・受託の内訳
小型ケーンハーベスタ	29.4ha	収穫作業 直営 17.9ha 受託 11.5ha
全茎式プランター	9.6ha	植付作業 直営 5.9ha 受託 3.7ha
株揃機	19.0ha	株出作業 直営 12.0ha 受託 6.9ha

2 農家の部

(1) 受賞農家

成績	市町村名	農家名	受賞区分
優秀賞	徳之島町	南郷 誠	独立行政法人農畜産業振興機構理事長賞

(2) 農家の概要

平成8年に就農し、さとうきび専作農家として規模拡大を図ってきたが、近年、息子も就農し、労働力は本人、息子、常雇の3人となっている。

平成21年に「小島さとうきび営農改善組合」を立ち上げ組合長に就任し、収穫作業を中心とした作業の受託にも取り組んでいる。

新植(春植、夏植)ほ場については、プラソイラでの深耕を行うとともに、地力の劣っているほ場には堆肥センターからの購入堆肥を投入(投入量:4~5トン/10a)して地力増進に努めている。

栽培面積の拡大に対応し、労働時間削減のため緩効性肥料を使用しているほか、メイチュウ、ハリガネムシ、チンチバックに対する防除を重点的に実施している。

収穫作業後1週間以内の株出し管理を目標に実施しており、ほ場条件にもよるが、春株は3~4回収穫、夏株は2~3回収穫している。

栽培品種は干ばつに強い農林23号を主体に伸ばしていく計画であるが(農林23号:60% 農林22号:20% その他:20%)、新しく県の奨励品種に選定された農林27号については、成果次第で30%程度まで割合を増やす計画である。

経営耕地の概ね75%が借地であるが、除草対策を徹底するなど適切なほ場管理により貸し手農家の信頼を得ており、このことが、周辺農家への理解に繋がり作付面積の拡大に繋がっている。

近年、イノシシ被害が多発しており、猟友会と連携して捕獲柵の設置を進めている。(本人も猟友会に所属し、駆除活動に協力。)

町が行う原苗ほ設置を受託するなど、地域貢献にも努めている。自然災害への備えの認識も高く、農業共済には100%加入している。

現在はさとうきび専作経営であるが、後継者の意向も踏まえながら、引き続きさとうきびを経営の主幹としつつ、タンカンやマンゴーなどの果樹との複合経営を模索している。

地区内での借地が厳しくなりつつあり、今後は、地区外も含めた中での借地により20ha程度まで規模拡大を図るとともに、夏植の割合を増やして、収穫量1,000トンの維持を目指す。

(単収目標 夏植:9~10トン/10a 春植・株出:7トン/10a)

営農集団の活動については、構成員の面積維持に努めながら、収穫作業等の受託も継続していく。

●農家の主要指標(H28)

認定農業者の有無	耕地面積		作付面積			耕地利用率 C/A	さとうきび作付面積割合 B/C
	①	うち借地	さとうきび ②	その他	合計 ③		
有	17.28ha	12.78ha	17.28ha	0	17.28ha	100%	100%

●さとうきびの生産状況

年度	新植夏植面積	収穫面積	合計	生産量	10a当収量	平均甘蔗糖度	共済加入率
26年度	3.2ha	17.2ha	20.4ha	619t	3,600kg	13.7度	100%
27年度	4.5ha	16.2ha	20.7ha	758t	4,693kg	14.2度	100%
28年度	5.1ha	17.3ha	22.4ha	1,089t	6,302kg	13.9度	100%

